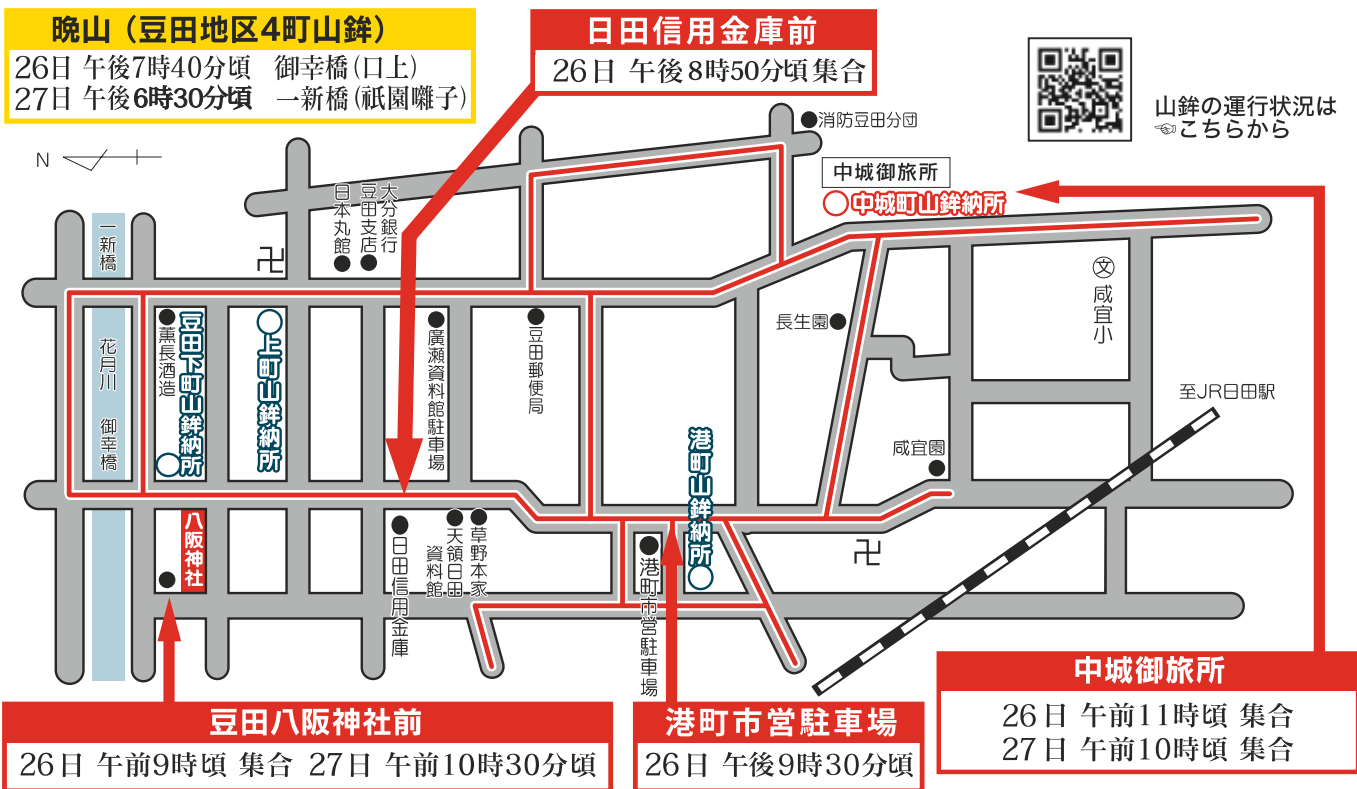


豆田地区

※豆田地区は、夜間(午後6時～午後10時)車輛進入禁止になります。



【豆田の起り】

江戸時代の慶長6年(1601年)に、小川壺岐守光氏が丸山城と称して月隈山(現・月隈公園)に築城した際に、城の東側に十二町村から商家を移して町が開かれました。元和2年(1616年)には譜代の石川主殿忠総が丸山城を改築して永山城と改め、城下の武家屋敷を花月川の対岸まで拡大し、豆田町としました。その後、幕府の直轄地「天領」となり代官所が置かれ、昇格し西国筋郡代役所になり、九州の政治、経済の中心として栄えました。また、幕末には廣瀬淡窓が咸宜園を開き、全国から塾生が集まってきました。



豆田上町

上町には江戸期、明治期制作の三枚の見送り幕(鯉・龍・鷺)があり現在、京都で『鯉の瀧昇り』の復元新調をおこなっております。今年でお披露目最後となる歴史ある見送り『鷺』も、ぜひご高覧ください。

見送り『鷺』

明治21年(1888年)制作



港町

港町の山鉾は巡行距離も長く、平成29年復元新調の可変式の山鉾(高さが自在に変えられる)が町内各所をくまなく回ります。併せて、平成22年に復元新調した「見送り」は必見です。

見送り『牡丹に唐獅子』

平成22年(2010年)復元新調



豆田下町

豆田下町の山鉾は、平成30年に復元新調を行い、74mの高さとなります。平成27年に見送り幕と水引き幕も復元新調を行ったことで、豪華絢爛な山鉾となりました。是非ご高覧ください。

見送り『鳳凰』

平成27年(2015年)復元新調



中城町

昭和61年に30年間途絶えていた山鉾を町内有志と町民の支援により復活を果たし、令和元年には34年ぶりに山鉾本体を文化財保存事業の一環として復元新調しています。また、見送り幕も同様に平成28年に復元新調しています。

見送り『玄武』

平成28年(2016年)復元新調

